

平成 30 年 1 月 15 日、スラバヤ日本人学校において第 8 回感染症研究国際ネットワーク市民講座を開催しました。

インドネシア国スラバヤ市において在留邦人を対象に感染症に関する市民講座（13:30 - 15:30、参加者 15 名）を開催しました。今年度は特にスラバヤ日本人学校とのジョイント企画として同校に通う児童生徒の保護者を主な対象としました。小さなお子さんは自分自身で感染を防ぐことが難しく大人の援助が必要です。また実際に途上国特有の下痢性疾患やデング熱に罹患された児童生徒及び保護者もあり、是非保護者を対象に話をして欲しいという同校からの依頼もあり実現しました。神戸大学インドネシア拠点常駐研究者の内海孝子が「下痢性疾患」、同上田修平が「デング熱」について講話しました。下痢性疾患には様々な原因があり、インドネシアを含む途上国では誰もが一度は罹る身近な病気です。アメーバ赤痢、腸チフスは日本では輸入感染症と考えられていますが、当地では珍しい病気ではありません。ノロウイルス、ロタウイルスについては先進国、途上国両方で流行しています。また、インドネシアはデング熱の世界的流行国であり、デング熱を媒介するネッタイシマカやヒトスジシマカが広く分布しています。生活環境周辺の小さな水溜りでも生育できるので都市部においても注意が必要です。これらのことから、今回は特に当地で可能な下痢症、デング熱の予防法について丁寧な説明を行いました。参加者からは日頃の疑問を解消するかのように多くの質問があり、活発な質疑応答が交わされました。今後も感染症やインドネシアで罹りやすい病気について在留邦人の皆様により多くの情報を発信していけたらと思います。

尚、本市民講座はアウトリーチ活動の一環として行われました。

